



小江原小学校だより

## 光満つ丘・空と風

令和6年6月13日号

文責：秋山壽哉

### 「ナガサキに生きる・伝える…」

6月4日(火)、5年生と6年生を対象に「被爆体験講話」を開催しました。

講師として、語り部活動や市民団体「長崎の証言の会」代表委員としても活躍しておられる 城臺美彌子先生をお迎えして、「あの日」「あの頃」のナガサキ、そして、今を「長崎に生きる子ども」の未来についてお話いただきました。

あの日、6歳だった城臺先生は、爆心地から2.4km離れた山陰の立山町で被爆されました。

その後の数日間、金比羅山中腹にあった防空壕で過ごされ、長崎のまちが真っ赤に焼けていく様子を、ご自身の目で見られたとのことでした。



「平和って何だろう」

城臺先生の問いかけに、子どもたちは深く考え、様々にイメージを抱きました。

水が飲めること、朝ごはん・給食・夕食を食べられること、学校に通って勉強できること、夢を抱き・語ることができること、安心して家族と過ごせること、夜は安心して眠られること…

戦争や原爆の悲惨さ、悲しみ、苦しみについて、鎖国時代からの長崎の歴史を振り返り、実際の防空頭巾や音響、地図等を用いながら、子どもたちに分かりやすく語っていただきました。



### 「若い皆さんと共に

#### 長崎を最後の被爆地に」

城臺先生からのメッセージを、小江原っ子は心に刻み、そして「想像する」ことを大事にしながら、「平和の創り手」の主体者として歩んでいきます。



講話終了後には、疑問に感じたことを積極的に尋ねる小江原っ子の姿もありました。

### 「ピースバトン・ナガサキ」

5・6年生の被爆体験講話とあわせ、5月31日(金)と6月7日(金)には、調 仁美様をはじめとする平和団体「ピースバトン・ナガサキ」の皆さまと共に、学年ごとに1時間ずつ平和に関する対話的な学習を行いました。

#### 【1・2年】

平和や命の大切さに気づき、興味をもつ。

#### 【3・4年】

平和や命の大切さについて、自分なりの考えをもつ。

#### 【5・6年】

平和や命の大切さについて、  
自分の考えを進んで伝える。

ことを「めあて」として学びを深めました。

各学年の発達段階に応じて、具体的に当時の生活の様子を知り、平和の大切さについて自身の心に刻みながら対話する学びとなりました。